

産学連携テーマの展示会 イノベーション・ジャパン開催

ビジネスマッチングを提案

科学技術振興機構（JST）と新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）は8月27・28日の両日、東京・江東区の東京ビッグサイトで「イノベーション・ジャパン2015」を開催した。

同展は、大学やベンチャー企業などが自社技術・研究成果を紹介し、NEDOが支援する中小・ベンチャー企業、大学機関などの研究者が、それぞれの開発技術・研究成果などを展示した。

産学連携の促進などを図るJSTゾーンでは、JST事業に関わる大学などが独自の開発技術・研究成果を発表した。

立命館大学のブースでは、同大理工学部ロボティクス学科が開発を行う「異なる配置環境に応じた複数の配置内検査ロボット」の研究結果を展示した。

同展は、大学やベンチャー企業などが自社技術・研究成果を紹介し、NEDOが支援する中小・ベンチャー企業、大学機関などの研究者が、それぞれの開発技術・研究成果などを展示した。

産学連携の促進などを図るJSTゾーンでは、JST事業に関わる大学などが独自の開発技術・研究成果を発表した。

立命館大学のブースでは、同大理工学部ロボティクス学科が開発を行う「異なる配置環境に応じた複数の配置内検査ロボット」の研究結果を展示した。

神戸大学のブースでは、同大理工学部による「サブサーフェスイメージング法の開発と生体、蓄電池、インフラ画像検査への応用」の研究結果を展示、開発したソ



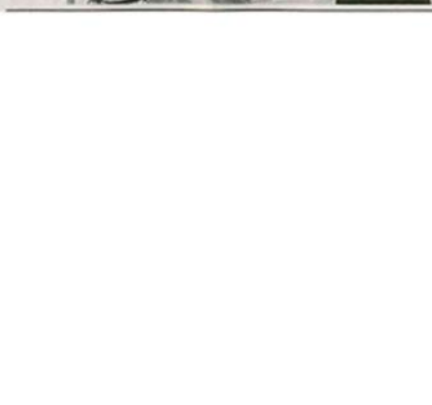
JSTはイノベーションの展示ブース



立命館大学ブース



神戸大学ブース



神戸大学ブース



神戸大学ブース



神戸大学ブース



神戸大学ブース

神戸大学のブースでは、同大理工学部による「サブサーフェスイメージング法の開発と生体、蓄電池、インフラ画像検査への応用」の研究結果を展示、開発したソ

曲管、丁字、垂直など様々な形状に対応した移動が可能。「カメラで配管の形状を確認し、その場で方向転換を図ることができる仕組み。現在はプラントやコンヒーターでの実用化を視野に開発を続けているが、配管自体の出荷前検査など幅広い場面で応用の可能性がある」と担当者は語る。

「コンクリート中の鉄筋は磁性体であり、錆などの欠陥があると欠陥部に磁場が発生する。磁気センサでこれを検出することでこの部分に欠陥があるかを測定できるが、測定位置と欠陥部の距離が離れているほど画像が不鮮明になり判断が難しくなる。我々が作ったソ

フトウェアは、ぼやけた画像を鮮明にできるなどの特徴がある」と、担当者は説明する。

インフラへの応用では、JR東日本のトンネル検査に採用（同大学のベンチャー企業IGI、三井造船との共同事業）。検査装置に搭載され、コンクリート覆工・剥離の3次元検査に活用されるなど、既に実用実績がある。